



避難器具を製造販売

オリロー (文京区)

誰もが使いやすい器具を

避難器具を製造販売する「オリロー」(文京区)は、東日本大震災での津波被害を機に、収納式固定はしご「オリローワンステップ」を改良した。自宅などの高層階に避難する「垂直避難」が知られるようになったのを受けて、1階の住民もはしごをのぼって避難できるようにした。今井正幸社長(70)は「誰もが使いやすい避難器具を開発したい」と話す。

ワンステップは、レバーを倒すと、柱状に収納された避難はしごが張り出す。震災前は火災時に高層階から地上に降りて避難する目的で使用。防犯対策として1階にはレバーを取り付けていなかった。だが、近年は水害が頻発し、1階部分に取り外しができる専用のレバーをつけられるようにして、1階からもはしごを開けるよう改良した。



1928年に創業し、当時は消火器や農業衛生噴霧器を製造していた。その後、避難器具を手掛けるようになった。避難器具は、消防法施行令で8種類と定める。避難ロープや救助袋、避難はしごなど「全8種類を製造できるのが強み」と今井社長。なかでも胴部に着用具を着けて自重で緩やかに地上に降りる避難器具「オリロー緩降機」が代表的な製品だ。

「まず階段で避難するのが原則」と今井社長は話す。避難器具は、逃げ遅れて取り残された人のほか、救助のために消防隊員が使う「最終手段」だという。要望が多かったため、避難器具の見学や無料体験の予約をインターネット上で受け付ける。「避難器具は訓練しないと使えない。誰もが使いやすい避難器具を開発したい」

(畑間香織)

▲ 避難器具「オリローワンステップ」について話す今井正幸社長(文京区)